

県外派遣報告書

審判員名	駒村 匡昭	所属	高体連
大会名	平成28年度 第30回関東クラブバスケットボール選手権大会		
期間	平成29年2月3日(金)～2月5日(日)		
会場	千葉ポートアリーナ		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
2月3日(金)	審判会議	ハロー貸会議室 千葉駅前	
2月4日(土)	1、2回戦	千葉ポートアリーナ	
2月5日(日)	準決勝、決勝	千葉ポートアリーナ	
会議 講義 内容			
<p>指名審判員 小坂井氏 『コート上でやるべき事』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○審判に求められていることは、ルールに沿った正しい判定をすること <ul style="list-style-type: none"> →ゲームが円滑に進む、プレーヤー・ベンチがストレスなく正しいバスケットを行う →ダイナミックなパフォーマンスを魅せることができる ○正しい判定をするために必要なことは <ul style="list-style-type: none"> ルールの理解、良い位置取り、経験etc <li style="text-align: center;">+ 【情報収集】 良い位置取りが必要 <li style="text-align: center;">⇕ 【判断】←正しいルールの適応 <li style="text-align: center;">⇕ 【判定】 コールする、コールしない <div style="margin-left: 150px; margin-top: 10px;"> <p>これらのことを自然に行っているが、 苦手な部分、できていない部分を 研究していかなければならない。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○運営面での情報収集 <ul style="list-style-type: none"> パートナー(クルー)のことを知る、TOとの協力、機材の確認、表示と音の関係、 ファールの数、フリースローシューターの確認など、当たり前だと思わずに1つ1つ確認する →習慣になるまでは意識的に行う <p style="text-align: center;">『最後は自分が決断しなければならない。決断から逃げずに正しい判定を続ける』</p>			
<p>指名審判員 増渕氏 『コート上でやるべき事 その2』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コートに立つ前にやるべき事はルールの理解と説明ができるようにすること ○『確認』・・・プレーの確認をしても対応しきれないことがある <ul style="list-style-type: none"> →トラブルを防ぐために『状況の確認』が必要 →『状況の確認』がトラブルの回避や円滑な運営につながる ◎クラブチームならではのゲーム展開がある。最初のプレーや基準を示す場面がいつ起こるかわからない。常に準備をしておかなければゲームに対応しきれなくなる。 			
<p>関東ブロック長 渡邊氏より</p> <p>全国大会に出場するチームを決める大会である。正しくバスケットをしたチームが全国大会に行けるようにしたい。いろいろな声に惑わされることなく自分自身の判定をしてほしい。ノーコールの理由、コールする理由をしっかりと持って、プレーヤーが納得する試合を運営していただきたい。</p>			

関東ブロック長 渡邊氏より『2POメカニクス』について

パワーポイントを用いて2POメカニクスの考え方を再確認し、共通理解をもって審判に取り組めるようにレクチャーをしていただきました。3POと2POの違いについて細かくお話しいただきました。

- ・良い位置から判断し、正しい判定につなげる
→ブラインドから判定をしない、動きながらの判定をしない
- ・マニュアルの実践が目的ではない
→大切なことは”何のために”動くのかということ

実技

担当試合	期 日	2月4日(土)	女子	一回戦
	対戦カード	QUEENBEE(千葉) VS Team DADA(茨城)		副審
	相手審判	主審 穂川 苑子 氏(群馬)		

ミーティング内容 主任 久保 あしみ 氏(千葉)

吹いたり、吹かなかつたりによって基準が曖昧なものとなり、結果的に自分たちで試合を難しくしてしまった。試合の序盤からもっと簡単に”ダメなものはダメ”という示し方をした方がよかった。トレールのときは常にリバウンドの判定に協力できるよう準備をしておくこと。

指名審判の増淵氏より映像を用いながらアドバイス頂きました。

今起こっているプレーをずっと見るのではなく、次に起こる・起こりそうなプレーへの準備をもっと早くする。そうすればより確認できるものが増え、正しい判定につながる。吹いているものは問題ないが、吹けなかったもの・吹かなかつたもの、判定できなかったものについては対応の遅れが原因である。

全体の感想

2度目の県外派遣の機会を頂き、改めて自分の課題や審判としてのゲーム運営の難しさを感じた大会になりました。県内でクラブチームの試合を審判する回数は少なくないですが、それでも県外の初めて見るチームの審判をすることの難しさ、選手が想定外の行動をすることなど、色々対応しきれない部分がありました。しかし、指名審判の増淵氏より試合の映像を見ながらのミーティングをしていただき、細かくプレーの状況やそのときのプレーヤーの心理などのお話をいただき大変勉強になりました。プレーの捉え方や、次のプレーの準備など具体的に今後の活動に活かせるものをたくさん得ることができました。いろいろなカテゴリーの試合をしっかりと運営することは今後求められることだと思いますので、県内でも所属連盟に限らず幅広い活動をしていきたいと思ひます。

最後になりましたが、関東協会の渡邊ブロック長、千葉県の三好審判長をはじめ、千葉県の皆様、関東ブロックの皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。また、このような機会を与えてくださった北島審判長をはじめ埼玉県協会の皆様にも感謝申し上げます。今後も、より一層精進し審判活動に取り組んでいきたいと思ひます。